

生誕二百年記念

手紙で読み解く

せいげつ
井月の人生

酒におぼれ、ポロをまとい、村から村へと歩き回った
漂泊俳人は、いったい何がしたかったのか？

一ノ瀬武志 著

【目次】

巻頭ギャラリ

第一部 井月の手紙と雑文

はじめに	1
はるちかいあんかんじょうもん	3
春近開庵勸請文	6
送別書画展観会のちらし	11
書簡一「心の目算忽ち変じて」	14
書簡二「活計に道を失ひ住居不定」	23
書簡三「御内々御願上候事」	27
書簡四「直様今日高遠へ出向」	29
書簡五「せめて紙筆の用だけ御工風」	32
書簡六「翁忌を御宝前にて御興行」	35
書簡七「歳旦摺も漸出来」	38
書簡八「勸化の義に付明日帳ひらき」	41
書簡九「風流の上にて証文等」	44

第一部
井月の手紙と雑文



はじめに

井月は、自分の家を持たず、人の家を泊まり歩いて暮らした「漂泊俳人」として知られています。

本名は井上克三（勝藏・勝造・勝之進）といい、越後の長岡の出身らしいのですが、若い頃のことからはほとんど分かっていません。家を出て俳諧師になり、柳の家井月と名乗るようになりました。

はじめは北信濃で活動していたようですが、やがて伊那谷にやって来て仲間をたくさん作り、『紅葉の摺もの』と『越後獅子』を出版。北信濃へ戻って『家づと集』を出版した井月は、これらの活動実績を手みやげにして、越後へ帰ったようです。

ところが戊辰戦争が勃発。長岡の街は新政府軍に焼かれてしまったのでした。

井月は再び伊那谷に現れ、草庵（芭蕉堂）を建てて暮らそうとしました。しかし建設計画は挫折。越後へ帰ると言って送別会を開きましたが、いつまでたつても帰らず、ずるずると伊那谷に居続けたのでした。



三角帽子をかぶり、銃や大砲で攻めかかる新政府軍の様子
(筆者所蔵の古い絵葉書)

《著者紹介》

一ノ瀬武志（いちのせたけし）

一九七一年、長野県上伊那郡辰野町生まれ。音楽教師。伊那に赴任してから郷土教材の魅力に憑りつかれ、次代を担う子どもたちに井月をどう教えたらいいか、研究および授業実践に没頭。

また、学習指導の業績により文部科学大臣優秀教職員表彰（平成三十年度）を受けたり、美篤小学校・赤穂南小学校のプラスバンドを長野県代表に育て上げるなど、各方面で活躍している。一般社団法人井上井月顕彰会監事。

生誕二百年記念

手紙で読み解く ^{せいげつ} 井月の人生

2022年12月28日 第1刷発行

著者 一ノ瀬 武志

発行者 木戸 ひろし

発行所 ほおずき書籍 株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

☎026-244-0235

www.hoozuki.co.jp

発売所 株式会社星雲社（共同出版社・流通責任出版社）

〒112-0005 東京都文京区水道1-3-30

☎03-3868-3275

ISBN978-4-434-31558-9

乱丁・落丁本は発行所までご送付ください。送料小社負担でお取り替えます。

定価はカバーに表示してあります。

本書の、購入者による私的使用以外を目的とする複製・電子複製及び第三者による同行為を固く禁じます。

©2022 Ichinose Takeshi Printed in Japan